

中学校社会科歴史的・公民的分野教科書の掲載地図にみられる初歩的な誤りに関する報告

Rudimentary Errors in the Maps Used in History and Civics Textbooks in Japanese Junior High Schools

近藤 暁夫 (愛知大学) KONDOH Akio (Aichi University)



地理学は歴史教科書や公民教科書の高度化にどのように貢献できる？

中学校の社会科教科書に関して、歴史と公民の教科書については、検定の内容や各自自治体での教科書選定をめぐり社会的な注目、議論ともに活発で、学界からの発言も目立つ。それに比べ、同じ社会科教科書でも、地理教科書と地理の学術界はいい意味でも悪い意味でも「平穩」であるといえる。しかしながら、中学校社会科が、本来は地・歴・公民の三分野の有機的な連携を通して、生徒たちに広く人間社会についての理解を育み、もって社会に主体的に参加する市民的資質を育成することが本質的な目的である以上、地理ならびに学界から「歴史」や「公民」の分野に対してより積極的な提言や貢献がなされることも求められよう。また、2003年には東京書籍の地理教科書で多数の誤りが指摘され、再配布する事態となった。教科書の記載内容を常に精査し、訂正や改善の提言をしていくことも、社会から斯学に求められる役割であることは間違いない。

もともと、専門の壁は当然あり、地理学プロパーが、「歴史」や「公民」の分野の教科書の内容に正面から口出しすることは難しい。ただし、地理学に一日の長がある「地図」の扱いに関しては、他分野にも貢献や提言ができれば、そこで、中学校歴史教科書と公民教科書に掲載されている地図が、地理的分野での地図の学習内容とどの程度連携できているのかを検討することで、三分野の連携による社会科教育の高度化に資そうと考えた。ところが、検討の過程で現行の中学校歴史教科書と公民教科書に掲載されている地図にあまりに初歩的かつ深刻な誤りが多いことに気づいてしまったので、まずこれを報告し、問題提起することにした。それが本報告である。

中学校社会科教科書掲載地図の検討と評価の方法

2015年度現在使われている中学校の歴史・公民教科書を全社分集め、掲載されている地図(絵図や鳥瞰図を含む)をすべて検討した。その中から、「距離尺がない」など改善の余地のある地図、「距離尺がない上に色覚障害の生徒に判別しづらい色使い」など複数の改善点が指摘できる地図(表では「深刻な問題」)、内容に明白な誤りがあり、場合によっては国際問題になりかねないような地図(表では「致命的な誤り」)を抽出した。その上で、便宜的だがそれぞれの地図に点数をつけ、各社の教科書を地図表現の観点から採点した(第1表・第2表)。なお、本文の記載内容等は一切評価対象にしていない。また、第3表・第4表は発表者が「致命的な問題がある」と考えた地図の一覧である。もちろん、評価の誤りや問題がある他の地図を見逃してしまっていることはありうる。

第1表 各社の中学校社会科公民的分野教科書に掲載されている地図の枚数とその評価

Table with 10 columns: 教科書名, 出版社, 検定年, 刊行年, 総ページ, 地図枚数, 改善の余地, 深刻な問題, 致命的な誤り, 得点, 総合評価

- 1) 描画された主題図のほか、地図や絵図の画像、鳥瞰図、地図として判読できる衛星写真や空中写真も枚数に加えている(第2表も同様)。
2) 地図1枚で+1、「改善の余地のある地図」1枚で-3、「深刻な問題のある地図」-5、「致命的な誤りのある地図」-10点で採点(第2表も同様)。

第2表 各社の中学校社会科歴史的的分野教科書に掲載されている地図の枚数とその評価

Table with 10 columns: 教科書名, 出版社, 検定年, 刊行年, 総ページ, 地図枚数, 改善の余地, 深刻な問題, 致命的な誤り, 得点, 総合評価

正直、結果に失望を禁じ得ない

地図の分量面からは、歴史・公民の教育と理解を進める上で、地図が一定の役割を担っているといえる。しかしながら、地図の表現や内容では、「ないはずの島が描画されている」「独立国が独立していない」など、とても国民の税金を用いて生徒に見せられるものになっていない地図や教科書もある。特に、自由社と育鵬社の歴史教科書には地図の誤りが非常に多い。また、両社とも同じ箇所にも誤りのある同一構図の地図が散見される。

第3表 各社の中学校社会科公民的分野教科書に掲載されている「致命的な誤りのある地図」とその内容

Table with 4 columns: 出版社, ページ, 地図タイトル, 誤り・問題点の内容

Four boxes with text: 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました, 近年の社会科教科書、特に地理・公民教科書においては、政府の方針もあって領土に関する記述が増加する傾向にあることが指摘されている。このこと自体の是非や、領土問題をどのように教えるべきかについての議論は抜きにしても、領土の範囲や国境線に「事実」の誤りがあるのは教える以前の問題なのは衆目の一致するところであろう。その点で、いわゆる「つくる会」系の教科書で、領土の描画に最も誤りが多いことには色々考えさせられる。

第4表 各社の中学校社会科歴史的的分野教科書に掲載されている「致命的な誤りのある地図」とその内容

Table with 4 columns: 出版社, ページ, 地図タイトル, 誤り・問題点の内容

Four boxes with text: 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました

育鵬社(H27版)24頁 育鵬社(H27版)50頁 自由社(H27版)86頁 育鵬社(H27版)73頁
・八重山列島の南方に謎の島。・あるはずの佐渡がない。・フィリピン中部やウルップ島、琉球が描かれていない。
・越後の国境線が消失。
・フィリピン中部やウルップ島、琉球が描かれていない。
・フィリピン島、奥尻島、礼文島、奥尻島がない。色使いが色覚障害の生徒にわかりにくい。
・ドイツ・ポーランド・ユーゴスラビア・ルーマニア等の国境線が支離滅裂。
・ポーランドの領域が実際と異なる。ルーマニアの北に謎の独立国。など。
・柳条湖周辺の省界線が消失。シベリア鉄道の終点が海中。距離尺が必要。など。
・延安北方に謎の点線がある。南西諸島の描画が不自然。距離尺が必要。
・対馬・済州島・沖縄が日本領ではなく連合国領になっている。
・1960年に東西ドイツが統一されチェコがNATO加盟。イラクの西に謎の独立国家。
・タイの西方に謎の国境線がある(実際にはインド洋)。距離尺が必要。
・八重山列島の南に存在しない島が描画。鴨緑江が松花江と合流。距離尺が必要。
・八郎潟が干拓されている。越後の国境線が消失。佐渡が描画されていない。
・レナ川やエニセイ川が途中で消失。フィリピンの南半分が消失。など。
・図の内容上必要な朝鮮半島が描画されていない。屋久島と種子島が消滅。
・ヨーロッパ各国の国境線が描画されているが支離滅裂。距離尺が必要。
・利尻島、礼文島、奥尻島がない。色使いが色覚障害の生徒にわかりにくい。
・ドイツ・ポーランド・ユーゴスラビア・ルーマニア等の国境線が支離滅裂。
・ポーランドの領域が実際と異なる。ルーマニアの北に謎の独立国。など。
・柳条湖周辺の省界線が消失。シベリア鉄道の終点が海中。距離尺が必要。など。
・仏領インドシナの国境線が実際と異なる。距離尺が必要。など。
・1960年に東西ドイツが統一されチェコが分離独立してNATO加盟。
・ドイツ帝国の形状が実際と異なる。アルメニアとジョージアが独立している。
・ドイツとポーランドの形状が実際と異なる。ソ連内カフカスに謎の国境線。

Four boxes with text: 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました, 発表時はここに図版がありました

自由社(H27版)222頁 育鵬社(H27版)207頁 自由社(H27版)248頁 育鵬社(H27版)234頁
・柳条湖周辺の省境が消失。中国・モンゴル、ソ連・朝鮮間の国境線が消失。ケルレン川が突然消失。ネルチンスクがあるのにウラジオストクがない。距離尺がない。
・柳条湖周辺の省境が消失。中国・モンゴル間の国境線がない。ケルレン川が突然消失。ネルチンスクがあるのにウラジオストクがない。シベリア鉄道の終点が海上。距離尺がない。
・1960年段階で東西ドイツが統一されている。チェコスロバキアが分離し、チェコがNATOに加盟している。イラクの西に謎の独立国家が存在している。
・1960年段階で東西ドイツが統一されている。チェコスロバキアが分離し、チェコがNATOに加盟している。

※これらの掲載地図は教科書掲載の原寸ではない。会場に教科書の実物を陳列するので、図の詳細や他の「問題のある地図」はそちらを参照されたい。

まとめと展望

検定を通過した教科書であっても、地図においては国際問題になりかねない水準の誤りを含んでいた。直近(平成26年度)の教科書検定では、ここで挙げた地図のいくつかには検定意見が出され修正されたようだが、今回も見過ごされたと思われるものも少なくない。長年に渡ってこのような恥ずかしい代物を子供達に渡してきてしまった責任を、教科書の著者・出版社をはじめ、検定体制・教科書選定体制・教育現場は自覚するべきだろう。また、斯学も、私を含めて実態を放置してきたことは自省されてよからう。教科書作成や検定現場への、地図の専門家集団としての地理学関係者の一層の参加などの体制の見直しや、斯学からの積極的な提言が待たれている。

● ご質問等は 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学文学部地理学専攻 E-mail: akiok@vega.aichi-u.ac.jp

近藤 暁夫 (愛知大学・准教授)

